

# 教育長だより

No. 14

2021年8月23日

## さあ、2学期です！

～ 私が夏休みに考えさせられたこと ～

教職員のみなさん、夏休みは「ゆっくり」できましたか。子どもたちはまだ休みですが、校園は今日（23日：月曜日）からは実質業務再開です。いよいよ2学期ですね。

さて、私は7月末から始まった「BG塾」を何度か見に行きました。30名の小学生が勉強とスポーツなどをして半日（9～12時）過ごすものです。（この取組みは中主地区のさざなみスポーツクラブがBG財団の補助を受けて行っています。全8回。前半は勉強、後半はスポーツなど。場所は中主中とBG体育館もしくはプールです。）前半の勉強は夏休みの宿題が中心。ボランティアの大学生とさざなみスポーツクラブの役員がいて教えてもらえるので、みんな一生懸命やっていました。また、お盆明けに見に行った時は、宿題を終わった子は読書をしていました。気になる子がいたので役員さんに聞いてみると、「お母さんも勉強の支援が大変なのでここを申し込まれたようです。」とのこと。

私が興味深かったのは3つ。1つは「子どもの居場所」です。長い夏休み、学童に行ってる小学生は、夏休みの季節学童を入れて約1,000人います。また、スポ少の活動に参加している子が300人あまり。他にも昼間のスポーツや習い事もあると思いますが、市内の小学生2,950人の半分近くが「自由」あるいは全くの「フリー」の状況です。長い休み中、自分で計画を立てて「自律」できれば、あるいは家庭の支援の中で過ごすことができればいいのですが、そうしたことが難しい子どもたちが何人もいるのではないのでしょうか。そうした子の「一部」がここに来ている子どもたちではと思います。私の孫（小学生）を見ると、家ではゲームやタブレットに流されるのがほとんどで、なかなか「自律」とは遠い生活でしたから。社会のニーズとして、小学生の家庭以外の「居場所」が求められていると思いました。（中学生は9割あまりが部活に入っているので、何らかの活動が夏休み中にあります。）

2つ目は「人間関係づくり」です。中主地区中心ですが、参加している子どもは野洲地区からも、そして、守山市からも来ています。学年も地域もバラバラです。でも、4～5人が一つの机に座って勉強したり体育館でゲームやスポーツ、あるいはプールで水泳をしていました。自然と声を掛け合い、仲良くなっていきます。そういう意味では子どもたちの新しい「人間関係の学びの場」となっています。

3つ目は「保護者のニーズ」です。このBG塾の申し込みは7月初めだったと聞いています。その初日におもしろいことがありました。「おもしろい」というのは失礼な表現でごめんなさい。（去年はコロナ禍で中止。今年は人数を例年の約半分の30人に限定。）受付開始は基本的には8時半からの先着順です。しかし、例年早くから並ばれているので、事務局の人は朝6時半に行かれたそうです。するともう一杯の人が並んでおられました。一番早い人は5時に来たとのこと。そして、6時過ぎに来られた方は「定員オーバー」なので、帰られたとか。たくさん保護者さんがこういう「場」を求めておられるのですね。

私は、地域でのこういう「子どもの居場所づくり」の大切さを考えさせられました。

※ 追伸

休み中、「気になる子」の支援はできましたか？ 2学期をスムーズに開始するためには、こうした子の支援はかかせません。あと数日、せめて連絡だけでも取ってみましょう。

そして、2学期始めも「学級びらき」が大切です。しっかり話せるようにお願いします。